

博物館の知られざる資料～新しい展示のご紹介～

おおつば かなで
大坪 奏(学芸員)

はじめに

博物館の3階、共生展示室の一角に小さな部屋があります。大きな窓のガラス越しにコンピューターが並び、ときには博物館のスタッフがそこで作業をしている様子を見ることができました。

2021年11月から行われた空調等改修工事の一環で、この部屋の空調機器を一新し、同時にこのガラス越しに見える空間もリニューアルすることになりました。

標本だけではない自然史資料

そもそもこの部屋、窓から見えていたのは一部分で、実際には60畳ほどの空間が広がり、ある資料の収蔵スペースとなっています。博物館の資料といえまづ挙げられるのは標本ですが、当館では標本以外の資料も積極的に収集してきました。たとえば、野外で生物を撮影した生態写真、色や形を記録するために撮影した標本写真、研究のために描かれたスケッチや図鑑の原図などです。代表的な資料について、由来や内容を紹介しましょう。

(1) 写真フィルム(図1A)

研究者などが自身の活動の際に撮影し、後年になり本人あるいは遺族から寄贈いただいたものや、「魚類写真資料データベース (URL: <https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage/>)」のように市民愛好家から広く協力を得て集められたものがあります。調査中や標本作製時に学芸員が撮影するなど、普段の博物館活動によっても生み出されます。種の特徴を示す色や形が標本処理によって変わってしまう場合、事前の撮影は重要です。現在ではデジタルカメラの普及によりフィルムはほとんど使われませんが、フィルムに残された画像もデジタル化することで、活用を進めることができます。魚・昆虫・植物・菌類など、さまざまな分野のフィルムがあります。

(2) 細密画(図1B)

研究者が記録として描いたスケッチや、画家と組んで作成した科学的かつ細密な生物画、図鑑や論文用に描いた原図などがあります。カニやキノコの細密画が主です。多くはカラーフィルムが普及していなかった時代に描かれました。

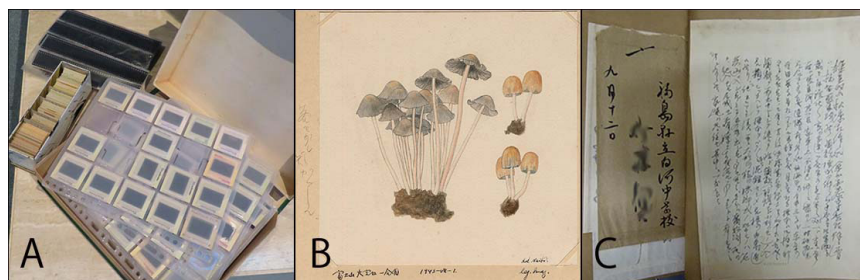


図1. 研究の過程で生成されたさまざまな資料(今関六也コレクションより), A: 写真フィルム, B: 細密画, C: 原稿・論文別刷り・手紙など。

(3) 原稿・論文別刷り・手紙など(図1C)

研究活動によってさまざまな資料が生まれます。例えば論文別刷り(抜き刷り)は、研究成果の発信や情報交換のために研究者間で交わされました。これらは当時の様子を知る史資料にもなります。特に地学分野で多くの寄贈資料があります。

これらの資料はそれぞれの素材ごとに保存に適した温度・湿度の範囲があり、標本とは異なる場所で保管する必要があります。この部屋には、こうした資料の一部が収められ、適切に温度管理された環境で資料を保存できるよう努めています。26年間使い続けた空調は老朽化し故障と隣り合わせでしたが、今回の改修工事後は資料をより安定して管理できるようになるでしょう。

アーカイブズとして

このように、ひとくちに標本以外の資料と言っても、由来も素材も実にさまざまです。しかしひとつの共通項があります。それは、「研究者や市民愛好家、博物館や学芸員が活動を進める過程で付随的に生成される資料」であるということです。たとえば、スケッチは研究を進める際に記録として作成され、通常それ単体では公になることはありませんが、研究の目的を達成するためには必要不可欠な資料であり、現在の私たちはそこからさまざまな情報を読み取ることができます。これらの資料を当館では自然史資料の一部に位置づけ、「アーカイブズ」として保管しています。

アーカイブという言葉はデータの長期

保存を意味するIT用語としてよく使われていますが、「個人や組織が作成した記録や資料を、組織的に収集し保存したもの。またその施設や機関(国立国語研究所)」という意味があります。最近では、国内のさまざまな組織によりデジタルアーカイブが作られ、さらにそれらを統合的に検索可能にする国家的な取り組みとして「ジャパンサーチ (URL: <https://jpsearch.go.jp/>)」も大きな注目を集めています。外来語として使われ始めた20年ほど前には認知度が低かったアーカイブという言葉ですが、今ではその対象は資料の持つ基本的な情報だけでなく、画像、動画、音声、研究データなどに拡大し、デジタルアーカイブはさまざまな情報のデータベースを指す言葉として世に広く認識されつつあるようです。

新しい展示スペース

今回の改修工事を機に、博物館が収蔵するアーカイブズについて展示室内で紹介するコーナーを作りたいと考えました。ガラス越しに見えていたコンピューターは別の場所に移し、あいた空間を活用しています。資料保護のため、実物資料の展示は実現できていませんが、博物館には標本以外にもさまざまな資料が収蔵され、活用されていることが分かるような展示となっています。

「知られざる資料」と題しましたが、ここで紹介した資料の多くは博物館のウェブサイト上の「収蔵資料データベース (URL: <https://nh.kanagawa-museum.jp/kpmnh-collections/>)」で自由にその画像を見ることができます。展示とあわせてぜひご覧ください。